

植村氏を招き輸出に関し記念講演

飛驒ミート農業協同組合コンソーシアムの令和4年度総会が6月13日、J A飛驒ミート「飛驒牛会館」で開催され、日本畜産物輸出促進協議会の植村光一郎理事を講師に招いて記念講演が行われ

た。豪州産「WAGYU」が一般的で、日本産との違



和牛輸出について話す植村講師

「とうとう本物の和牛が入ってきた」と歓迎され、「ブランドが支持された」とも大きな確信になった」とした。パリでは世界最高峰の精肉店と

いに興味をもってもらえず苦戦したと述べた。一方、ニューヨークでは参加者から「芸術的

現地の反応など大きく

飛驒ミート農協が開催

で、メルティー(とろけ感)で素晴らしい香り」という言葉をもらい、牛肉大国で支持を受けるのを確認し、「料理の

情報発信基地で認知されたい」と述べた。北欧では、和牛はオレ

が実際に販売されていたが、脂が黄色く霜降りも

少ない、「日本産和牛は芸術的」と称賛を受けた。アジアでは価格志向が強いので、43部位まで細分割して部位ごとの特性や肉質の特徴を示し、

「和牛の霜降りは海外で受け入れられており、和牛の上物規格が86%を超えてきていることは輸出にとってもいいこと」